

「2017 韓国・延世大学校スプリングスクールプログラム参加報告書」

京都大学 総合人間学部 2年 放生麻佑

韓国とは如何様な国か。それは、私たちが教科書や本、インターネットで得うる知識を求めれば語り得ることだと思う。歴史的に見れば、影響をときに受け、ときに与えた隣国。そう思って、高校時代の私は何も興味を持たず、それ以上のことを知ろうとしなかった。中高と英語を学んでいたこともあり、「国際交流」「国際理解」といったら、英語圏に対してするものだという印象しかなく、アジア圏でしかも近い国である韓国に対しては、そんなことをせずとも「交流」「理解」ができると思ったんだろう。

そんな印象が変わり、韓国のことをもっと知りたいと思ったのは、同世代の韓国人の友人ができたことだ。肌の色や髪の色など、外見ではほぼ国籍の区別のつかない我々なのに、触れてきた文化や社会が違くと、同じことでも感じ方が違うのか、ということが面白く、もっともっと知りたいと思ったのだ。

こうして参加させていただいたプログラムだが、韓国で実際に生活をし、韓国語を学ぼうちに、より日本と韓国の違い・共通点が見えてきたことはもちろん、普段の日本での生活では意識しなかったことが見えた。

私は韓国語がほぼ初修だったということもあり、韓国に到着してから数日間、ハンゲルが暗号のように見え、韓国語を話す声が呪文のように聞こえ、ただ町中を歩くだけでもわけがわからず大変に心細い思いをした。延世大学校の語学堂で学ぼうち、段々と読めるようになったためその心細さは軽減されたが、これによって私は語学を習得することの喜び、そして日本語を知らずに京都観光をしている、観光客の不便さに気づいた。京都は観光都市ではあるが、まだまだ標識などで日本語表記のみのものが多いと思う。今まで観光客のマナーの悪さを問題視するニュースを聞いたとき、何も考えず観光客が一方的に悪いと思っていたが、自分が逆の立場に立ったことで、そのことに気づけたと思う。だからこそ、英語という多くの人が理解できる言語を習得することが、コミュニケーションをするうえで重要だと思った。

違いとして最も大きく感じたのは、韓国の「美しさ」に対する均質さである。韓国の若い世代は、男性も女性も皆見目の良い恰好をしている人が多い印象を受けたが、彼らのしている髪型や服装がどれも似通っているのだ。京都に帰り、若い人たちを見ても、韓国で感じたあの「美しさ」に対する均質さは感じなかった。そのとき思い出したのが、延世大の学生とのセミナーで、「日本の音楽はなぜあんなに多様なのか」という質問を受けたことだ。日本人の私が気づけなかった日本社会の多様性を、韓国の学生に指摘されたと思うとともに、彼らは韓国に均質さを感じているのだろう、と感じた。

このほかにも、食器の持ち方、トイレの使用方法、親しい人との距離感など、様々な違いを感じたが、韓国語を学ぶ中で、日本語と似た単語の多さに驚かされた。これは韓国語を学ばなければ知り得なかったことだ。韓国語を学ぶ楽しさを味わえた。

韓国を通して日本を見る機会を与えていただいたおかげで、日本の良さを実感し日本でこれからも生きていきたいと思った。この春私も3回生になる。日本をより良くできるような社会人の一員になる準備を進めていきたいと思う。

연세대 학교에서의 한국어 수업은 매우 훌륭했다. 앞으로도 한국어 공부를 계속하려고 생각합니다. 맛있는 한국 요리를 먹고, 한국의 전통 문화를보고, 한복을 입기도했습니다. 한국에서의 즐거운 생활을 시키게 감사합니다.